

令和7年度 「特色ある学校づくり推進会」 活動報告

佐世保市立三川内中学校
佐世保市新行江町 957 番地
校長 松井 弥伸
生徒数：66名 学級数：5

1. テーマ・目的

よりよい自分と未来社会を創造する

主体的に学ぶ姿
豊かな想像力と創造力
たくましい体

主体的・対話的で深い学び

いのちの学習

ふるさと学習

生き方学習

2. 実践内容の紹介

通年 生徒会挨拶運動 (全学年)	5月 作陶活動 (全学年)	7月 薬物乱用防止教室 (3年)
		
7・10月 マナー講座 (全学年)	8月 窯焼成 (全学年)	9月 職場体験 (2年)
		
6・10月 福祉講話・体験 (3年)	10月 コスモスさんぽ (全学年)	10月 いのちがやく講演会 (全)
		

11月 文化芸術鑑賞会(全学年)	1月 職業講話(1年)	2月 立志式(2年)
		

3. 実践の成果と課題

(1) いのちの学習

社会福祉協議会のご協力を得て、3年生を対象に福祉講話と体験活動を複数回実施した。特に10月には、障害のある方からご自身の生き方についてパソコンの音声で語られる講演を聴き、開発されたゲーム等を体験させていただいた。その方の多才さや苦難を乗り越える心の強さに触れ、自分の強みを生かした命の輝かせ方を学ぶことができた。また、10月には熊丸みつ子さんをお招きし、全学年と保護者を対象に、「いのちかがやく講演会」を実施した。中学生という多感な時期の心の葛藤に寄り添いながら語りかける熊丸さんの明るく元気な雰囲気や、「反抗期万歳。それが成長の証。」という言葉に励まされ、これまでの自身の家族や人との関わり方を見つめ直し、どのように人と関わりながら自分の命を輝かせて生きていくかを具体的に考えることができた。今後も、様々な人の生き方や考え方に触れる機会を設け、自他の命について深く考えられるようにすることが大切である。

(2) ふるさと学習

今年度は、総合的な学習の時間を「地域に関する探究活動の時間」とし、1年生は「三川内焼き」、2年生は「三川内を含めた地域で働く人」、3年生は「三川内の活性化」に関する探究を行った。その中に、全学年とも三川内地区の伝統産業である窯業体験を盛り込んだ。その際、三川内窯業組合に依頼して作陶や窯詰め、窯焼成の際に地域の陶芸家の方を講師として招聘し、ご指導いただいた。生徒は、それぞれの方法やコツ等を学びながら、全員が個性豊かなオリジナルの陶器を作成することができた。また、三川内地区自治協議会主催で開催された「三川内コスモスさんぽ」の運営スタッフとしての活動も盛り込んだ。窯焼成で作成した作品の展示販売や、複数のブースのお手伝いに加えて、今年度は探究学習の発表の場も設け、特に3年生は三川内地区の活性化に向けた提案を全員が発表した。それまでの焼き物体験や探究活動によって実感した地域の良さや地域への感謝の思いを持って地域の方に触れ活動を手伝うことができたことで、ふるさと三川内の人たちが大切に守ってきた伝統産業や風土を誇りに思い、継承しようとする思いを育むことができた。今後も、探究活動のさらなる充実に向けてカリキュラムを見直し実践することで、生徒は自己有用感と共によりよい未来を創造する力を身に付けた地域社会の担い手として成長できるのではないかと考える。

(3) 生き方学習

外部に講師を依頼し、1年生は職業講話2回、2年生は職場体験学習、3年生は薬物乱用防止教室やデートDV防止講演会、全学年共通のマナーアップ講座や平和の語り部さんによる講演等を実施した。生徒が自身の人生を豊かに想像し選択し決定していくために、多様な人と関わり生き方や考え方に触れる場づくりを心がけた。いずれの場でも、専門的な話にとどまらず、実例を交えた具体的なお話を聞くことができたため、生徒の感想には話に登場した人に対する共感や批評、提案等が根拠をもって書かれており、自分事として考えていることが分かった。今後の自分の言動や生き方に関する決意も多く見られた。今後は、当日の聴講や体験が、その前後の日常生活や学習と結びつけて考えられるよう時期やテーマ、他教科等のカリキュラムとの関連も一考する必要があると考える。